

# まぶな

日文の教育通信

未来をになう子どもたちへ  
日本文教出版

vol.01

2011年03月

## 江戸しぐさに学ぶ

お心肥やしの江戸しぐさと心を耕す道德教育

# 鼎談

1 子どもは  
感性で生きている

見る、聞く、話す  
そして考える

子どもを見守る  
ディフェンダーが  
3 欲しい

江戸しぐさが育つ  
4 共同体意識

5 三つ心 六つ躰  
九つ言葉 十二文  
ことわり  
十五理で末決まる



越川 禮子

特定非営利活動法人・江戸しぐさ理事長

特定非営利活動法人・江戸しぐさ理事長。江戸しぐさの研究、普及活動を行っている。著書に『人づくりと江戸しぐさおもしろ義塾』（共著）、『三六九の子育て力』『暮らしようおう江戸しぐさ』『江戸の繁盛しぐさ』など多数。



宇井 治郎

元東京純心女子大学教授  
全日本中学校道德教育研究会顧問

元東京純心女子大学教授、全日本中学校道德教育研究会顧問。専門は道德教育論、生徒指導論。著書に『人間理解と道德教育』（共著）、『学校はイジメにどう対応するか』（編著）など。



吉澤 良保

東京純心女子大学教授

東京純心女子大学教授。専門は道德教育論、教育的行動学、生徒指導論。著書に『人間理解と道德教育（新訂版）』（編著）、『生徒理解のための教育的行動学』など。

# 1 感性

子どもは感性で生きている

**宇井** 本日は、越川先生、吉澤先生からご高説を拝聴して、子どもたちの道徳性を養っていくヒントをいただきたいと考えています。

まず、各地の教育委員会や学校でご講演なさっている越川先生に、日頃お感じになっていることをお話しいただければと思います。

**越川** 子どもたちは感性の人ですからね。大人になると私欲が出てきて、とっさにそれで判断するけれど、子どもはありのままの感性で発言します。講演後の感想を見ると、本当に感心しちゃいます。子どもたちが言うんですよ。「僕



たちはしているよ」と。江戸しぐさという言葉は知らないけれど「おはよう」と言えば「おはよう」って返す。しないのは大人だと言うんですよ。子どもは本来素直に自分の感性で生きている。だから、私は子どもを信じています。

# 2 そして

見る、聞く、話す、そして考える

**越川** これは私の友人の話ですけど、電車に乗ったら、遠足に行く小学生の集団がいたそうです。がやがや騒いでいるから「どこへ行くの」って聞いたら、指を口に当てて「シー、シー」。知らない大人に声をかけられたら、黙っちゃう。誰に教わったのか知らないけれど、杓子定規と言うか、インプットしてすぐにアウトプットするというのは、全然頭を使っていないわけですよね。

江戸の寺子屋というのは、商家の女あるじ、男あるじを育てるところです。人の上に立つリーダーを育てる、一種のエリート校なんですよ。だから、読み書きそろばんだ

けじゃダメなの。見る、聞く、話す、そして考える。考えることが常に入っているんですよ。だから、技術や知識はある程度お金や時間をかければだいたい覚えられますけれど、この人格というのか、いかに生きるべきか、哲学とは言わないまでも、そういう人間としての真っ当なことが、この頃抜けちゃったような気がしています。



**越川** 黒子とまでは言わないけれど、そういう目立たないところで支えるという、大人や地域の教育力が不足しているんですよ。

**吉澤** そんな話をしていると、「じゃあどうすればいいんですか」と聞かれるから、私は「明るく、いつも、嬉しそうに笑顔で『おはようございます』と言っていけば、ディフェンスになるんですよ」と言っています。

# 3 見守る

子どもを見守るディフェンダーが欲しい

**宇井** 吉澤先生は、江戸しぐさを主題にした市民講座をもう7年も続けていらっしゃいます。ずっとおやりになって、お感じになっていることを聞かせてください。

**吉澤** 私は越川先生のようなプロパーではないものですが、外野席から、江戸のしぐさや思い、粋の世界を見ているんです。

今の子どもと大人は、サッカーの例えで言うと、みんなフォワードなんですよ。前へ、前へ、と進む。ディフェンダーのように、脇にいて、前に行く人を支える人が少ないんですよ。脇はやっぱり大人であるべきなんですがね。

# 4 江戸しぐさ\*が育つ共同体意識 共同体

**宇井** 越川先生のご著書によりますと、江戸っ子の条件というご指摘がありますね。江戸しぐさが育った背景などもお話しください。

**越川** 私も芝三光先生に出会うまでは、江戸っ子というのは「食いねえ、食いねえ、寿司食いねえ」とか、「し」と「ひ」があいまいになるといったイメージでした。でもあれは、職人の江戸っ子なんです。

職人は腕（技術）を持っていますから、江戸払いになっただけで平気なわけです。だけど、江戸しぐさで言う江戸っ子は商人。それも上に立つ人の話ですから、宵越しの金を持ってなかったり、べらんめえであったりするはずがない。町衆の人々の話し方はとても丁寧だったのです。

1603年に徳川家康が開府して、100年も経たないうちに100万に近い人口、世界で有数の都になりますよね。いろいろの人が集まってくるわけでしょう、異文化のルツ

ボですよ。それで「郷に入れば郷に従え」の例えのように、江戸に入れば江戸に従うルールを町方のトップの人たちがつくっていくわけです。その人たちは四書五經とか陽明学とか、人間をよく研究しているんです。そうして人間はいかに生きるべきかというのを勉強して、それを易しい言葉、ユーモアのある言葉にしていってのが江戸しぐさなのです。

**吉澤** 伊勢から日本橋にやってきた木綿問屋の人たちが「いかに江戸で暮らすか」と考えたときに、まず行ったのは仲間意識を育てること。それができたら今度は商品を売らなきゃいけない、人々の目を引く何かしらの広告塔が必要だということで、江戸しぐさが日常化した側面があると思います。

\*「江戸しぐさ」とは、江戸商人の秘伝として受け継がれてきたもので、口のきき方、表情から身のこなし方だけでなく、考え方や美意識などすべてを包み込むものです。

# 5 三つ心 六つ躰 九つ言葉 十二文 十五理<sup>ふみ ことわり</sup>で末決まる<sup>\*</sup> 末決まる

**宇井** 小学校4年生の道徳と総合的な学習の時間を使って、江戸しぐさの中にある「傘かしげ」「こぶし腰浮かせ」「うかつ謝り」など勉強した後の感想で、子どもたちはそういう実践の仕方を知らなかったと言っているんです。

**越川** そうなんです、本当に知らないんです。

**吉澤** 基本的には、越川先生がよく言われている、「三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理で末決まる」の教えに関係しているのだと思っています。現在は、お受験、勉強など生活感覚や価値観が変化していますので、日常的なトレーニングをどこですのかということですよ。

**越川** そうなの。多くの人が、何かおかしなことがあっても、無関心だとか、黙っているでしょう。

**吉澤** 戦後、日本は何もなくなってしまった。倫理とか道徳観を裏付ける客観的な圧力がなくなって野放図になっているように感じます。ですから、収束をつけるためには、大人たちがもっと毅然とした態度をとるとか、もっとものを言わなければいけないと考えています。かつては、大人からきつく叱られたという経験を積んだ方々が沢山いらっしやるはず。けれど、今はみんなおとなしくなって、いいおじいちゃん、いいおばあちゃんになろうとしている。今までに人々の生活の知恵として蓄えられた財産が活用されていないように思います。

**宇井** 学校における道徳教育の充実が求められているように思います。有り難うございました。

\*江戸の大人たちは「三つ心 六つ躰 九つ言葉 十二文 十五理で末決まる」と言って、稚児（おさなご）の段階的養育法を考えて、今でいう全人教育を実践していました。



「どうとくのひろば」から転載

## 魅力のある道徳授業を寸描する

道徳の授業に対する児童生徒の感想に留意すると、積極的・肯定的な感想がある一方で、消極的・否定的な意見があることも事実です。

魅力のある道徳授業の創造は、適切な資料（教材）の選定とその読み込み、発問の明確化と仮面の機能の活用、話し合いの組織化等が基本的に問われる課題だと考えます。

### ■ 資料（教材）を通して人間を読む

教科には主たる教材としての教科書がありますが、道徳の時間は学校ないしは教師個人が資料（教材）を用意することになっています。教師の識見と力量は、資料探しに費やすのではなく、資料の活用、授業の創造に向けたと考えています。道徳教育の資料は、文科省・地区教委作成の資料集、各出版社の副読本などに精選された作品が整っています。日本文教出版株式会社では、地域性に配慮した中学生用の「東京都版」を用意しています。

道徳の授業は、道徳的価値を含む「ねらい」の実現を目指すわけですから、その「ねらい」との関わりで資料に描かれている「人間を読む」ことが活用の基本であり、道徳の授業の成否を左右することになります。具体的には資料のどの場面（部分）を取り上げて、何を考えさせようとするのか。その場面に描かれている登場人物の行為や態度を支えた（促した）心の動き（人間性）を分析し読み取ることが肝要です。この読み取りの深淺さが意味ある「発問」を構成する鍵になるのです。

### ■ 発問の明確化と仮面の機能を活かす

発問は、児童生徒が考える切っ掛けを与えるとともに学級の話合いの方向性をリードするものですから、発問に託す教師の意図ないしは願いを明確に

することが肝要です。その場合、人間の欲望や感情を理想に照らして自ら律していくことは極めて困難な課題だという人間の自然性を認め、ではどうあることが望ましいのかという、人間としての生き方を追求する課題を明確にすることが求められます。更に、児童生徒の発達段階による内省的な思考の深まりは、仲間の前で自分の心の内をあからさまに表出することをためらう傾向を示します。シュプランガー（ドイツ・1882～1963）は「他人の心の動きは、自らの体験に照らしてしか理解できない」と教えています。この指導原理に着目し、活用する資料の場面に即して、「このとき、登場人物は何を考えていたと思うか」というように、登場人物という「仮面」を被らせれば、人前で臆することなく自分の考えを語ることができるのです。

### ■ 話し合いを「点」から「面」に広げる

教師の発問と児童生徒の応答が「点」に止まることなく「面」に広げる配慮が、話し合いの組織化に繋がると考えています。授業の実際に目を向けて見ると、教師の発問に回答した何人かの児童生徒の意見に対して、他の児童生徒の肯定、批判、追加等の発言を重ねることによって、個人として曖昧だった価値観が明確になったり、友人の価値観に気付いたり、学級全体としての思考の広がりや深まりが期待できるのです。（宇井治郎）